

考えてもいいし、スポーツボランティアからの発想があってもいい。もちろん感染予防をしっかりと考えて手だてをとることが大切。そんなことを積み上げて実績にしていけば、楽しい市民スポーツとボランティアの世界が必ず戻ってくると確信しています。

【日本スポーツボランティア学会】

笹川スポーツ財団から東京マラソン財団にボランティア運営が移ったこともあり、日本スポーツボランティア・アソシエーションはその後、東京マラソンのボランティアからは離れて、いま力を入れているのがスポーツボランティアをもっと考えていく「日本スポーツボランティア学会」の運営です。

学会ではこれまでに「スポーツボランティアハンドブック」を編纂・発行したほか、学会誌「スポーツボランティア学研究」を不定期に発刊しています。研究者だけでなくボランティアの実践者、ボランティアに興味のある方ならNSVAの会員、賛助会員になることで学会員とすることができます。学会加入希望の方、問い合わせはNSVA（東京都新宿区百人町3-1-6 西戸山タワーホウムズB1F）電話・ファクス03-3366-0506、Eメールinfo@nsva.or.jpへ。

9月6日は スポーツボランティアの日

東京オリンピック・パラリンピックという、日本で最大のスポーツ大会を担う出場選手とスポーツボランティアの人びとへ「選手みなさん、感動ありがとう！！」「労を惜しみなく、努力を発揮してくれたスポーツボランティアの皆さま、ありがとう！！」の思いを託した記念日です。

日本スポーツボランティア・アソシエーションが2018年に、「日本記念日協会」（一般社団法人）に申請して登録されました。

9月6日は東京2020オリンピック・パラリンピック大会開催の日程の最後になる、パラリンピック閉会式でありオリ・パラ大会全体の閉幕式が行われる日でした。残念ながら新型コロナウイルス感染症のために1年延びて、2021年パラリンピックの閉会式は9月5日に変更になりましたが、記念日は当初日程での登録です。

一日のずれは、世界中を揺るがせたパンデミックの記憶と、本来は2020年の開催だった証を歴史にとどめる、という意味が加わったことにもなります。

このスポーツボランティアの記念日を、スポーツボランティアにかかわる多くの人たちに伝えていきたいものです。



「道端で探す先人の知恵」

春から初夏、夏にかけて道ばたや河川敷、公園などではタンポポの黄色い花が風に揺れています。

そのタンポポの根や茎、葉を使うタンポポ茶を「新型コロナウイルス感染症の予防効果がある」と宣伝した大阪の薬局が、さきごろ医薬品医療機器法違反（未承認医薬品の広告禁止）で書類送検されたそうです。混乱につけこむよからぬ手合いはいつの世にも出てくるものですね。

ただ、タンポポの名誉のためにいえば、医薬品ではありませんが、古くから健胃、利尿、催乳などに効果があるとして用いられていることをご存知の方は多いでしょう。

開花前の根をつけた全草を刻んで天日干ししたものは「蒲公英」（ほこうえい）と呼ばれる生薬です。＜ハーブの知識と応用＞（小松美枝子、グラフ社）には英語名「ダンディライオン」でハーブの仲間として紹介されています。

タンポポ茶や、乾燥させ炒った根を用いるタンポポコーヒーはノンカフェインで冷え性にいいので愛好者がいます。セイヨウタンポポの葉は多少の苦みがありますが、東欧や中東ではサラダの材料としてよく使われるそうです。コーヒーのほかにも根はゴボウのかわりにきんぴらにするとよい酒のつまみになります。

タンポポと同じように、アスファルトの割れ目からもたくましく生えてくるド根性植物がスギナですね。兄弟にあたるツクシは佃煮や卵とじにするとおいしいことで知られていますが、スギナは畑の栄養分を全部吸い取ってしまうと、農家に嫌われる存在でどちらかという悪役。けれども成長した葉茎を乾かすとこれも「問荆」という生薬になるのだそうです。

＜身近な「くすり」歳時記＞（鈴木昶、東京書籍）には、スギナは咳を止め痰を切るサポニンの一種エキセトニン、利尿作用のあるフラボノイドのイソケルセチンなどを含み、痰がからんだり膀胱炎で尿の出が悪くなったときに、問荆を煎じて飲むと紹介されています。煎じた液はうがい薬にもなります。この本には桜の樹皮をはいで乾燥したものが、食あたりや下痢に効く民間薬として江戸時代によく使われたことも載っていました。また塩漬にした桜の花びらにお湯を注いだ桜湯は、クマリンという香り成分が含まれていて二日酔いに効くのだそうです。

今年の春は新型コロナウイルス感染症のせいで、桜の下でジンギスカンを楽しむことが出来ず、寂しい花見になりました。感染が下火となっても、不要不急の外出を避けてという新しい生活様式はしばらく続きそう。3密は避けながら健康維持のために、近くでの散歩やジョギングなどは続けたいものです。

そのさいには、せっかくですのでこうした普段見慣れている身近な自然の恵みにあらためて目を向けて、先人の知恵に触れてみるのも一興ではないでしょうか。（未知）